

診療最前線

整形外科

整形外科は、骨・関節・筋肉・靭帯・腱・脊髄・神経の疾患および外傷による損傷を治療します。首から腰にかけての脊椎、上肢および下肢の疾病、外傷を主に扱う診療科です。長野松代総合病院整形外科ではそれぞれの医師の専門性を重視した整形外科治療を行っています。得意分野は関節外科、脊椎外科、上肢の外科、スポーツ整形外科などです。長野地区の整形外科の拠点、最終病院として、急性期および慢性疾患に対する高度で地域住民に信頼される医療を、

平成23年度患者数
 外来：56706人（1日平均213.2人）
 入院：29862人（1日平均81.6人）
 平成23年度手術件数：1363件
 外傷：372件
 （上肢143件、下肢222件、脊椎7件）
 疾病：991件
 （上肢204件、下肢625件、脊椎162件）

専門医を中心としてメデイカルスタッフも参加したチーム医療で提供し、期待にこたえます。

《関節外科》

変形性膝関節症の治療として関節鏡視下手術、高位脛骨骨切り術、人工膝関節単顆置換術、全置換術を患者さんの状態に合わせて選択しています。両膝罹患の人工関節置換術を行う患者さんでは、1回の麻酔で両側の手術を無輸血で行う方法を採用し、入院期間、医療費の軽減を得ています。最近では屈曲角度を主とした機能面の向上も著しくなっております。変形性股関節症に対しては主に人工股関節置換術を施行しています。変形性足関節症に対しては、靭帯再建または足関節固定術を行っています。

《脊椎外科》

腰椎椎間板ヘルニアに対して顕微鏡あるいは内視鏡を使用し最少侵襲でヘルニア摘出を行っています。また腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症に対する手術も除圧を行い、症例により固定器具を使用し早期離床、早期歩行訓練を行っています。頸髄症には脊柱管拡大術を行っており、胸椎の破裂骨折に対しても前方

固定を行っています。側弯症以外のほとんどの症例に対し手術の治療を行える体制です。

第44回 日本人工関節学会を開催いたします



整形外科が一番得意とするのは人工関節置換術です。1年間に約300関節の人工関節手術を行っています。これまでに延べ4000例の手術を行いました。股関節、膝関節の変形により歩行困難となった患者さんの歩行能力を改善させる重要な治療方法です。これまでに行ってきた業績が評価され、全国規模の学会である第44回日本人工関節学会を、秋月統括院長が会長を務め、2014年2月21日・22日に沖縄の宜野湾市で開催します。学会のテーマはScientific Art—次の世代へ—です。当院が開催を担当すること

は大変名誉なことであると同時に、職員一同身の引き締まる思いであります。心に残る学会にしようとして準備を進めています。

《最近の特徴》

現在長野市の高齢化率は25%で、松代町では30.3%とさらに高値を示します。救急車の搬送患者さんの平均年齢は5年間で3.05歳上昇しています。こうした高齢化率の上昇に伴い、骨粗鬆症による骨折が増加し、対象患者さんも以前よりさらに高齢化しています。高齢化に伴い複数の疾病を合併した患者さんが増加していることや、骨粗鬆症がさらに進み、骨の脆弱性が増していることにより手術が以前より難しくなってきました。しかし寝たきりにならないように循環器科、麻酔科とも連携し積極的に手術治療を行っています。



左：単顆置換用膝人工関節 (ZUK)
 右：全顆置換用膝人工関節 (NRG)

診療をになうドクター

中村 順之
関節外科
外傷

堀内 博志
関節外科
関節リウマチ
外傷

秋月 章
関節外科
関節リウマチ
スポーツ整形外科

瀧澤 勉
上肢の外科
外傷
関節リウマチ

山崎 郁哉
脊椎、脊髄疾患
関節リウマチ

松永 大吾
スポーツ整形外科
関節リウマチ
外傷

望月 正孝
スポーツ整形外科
一般整形

二木 俊匡
一般整形

尾崎 猛智
一般整形

水谷 康彦
一般整形

豊田 剛
外傷
一般整形

原 一生
外傷
一般整形

倉石 譲治
一般整形
関節リウマチ

小藤田 能之
外傷
一般整形

人工関節センター

スポーツ整形外科

外傷、一般整形

上肢疾患
(肩・肘・手)

脊椎、脊髄疾患

関節疾患
(関節リウマチ)

《上肢の外科》

肩の腱板断裂、難治性肩関節拘縮、肘では肘関節症、肘部管症候群、手関節および手では各腱鞘炎、手根管症候群、CM関節症、キーンベック病など変性疾患に対する各手術、また肩肘のスポーツ障害、反復性肩関節脱臼、肩肘関節周囲の骨折、舟状骨偽関節、橈骨遠位端骨折および変形治癒、手指の外傷など多方面にわたり治療を行っています。

・日本整形外科学会専門医	12人
・日本リウマチ学会指導医	3人
専門医	6人
・日本リハビリテーション医学会専門医	3人

《スポーツ整形外科》

膝関節と肩関節の損傷を多く手掛け、特に膝前十字靭帯再建術では、関節鏡視下に屈筋腱による解剖学的再建術を、また半月板断裂には縫合、切除などを患者さん個々に最良の適応を考えて関節鏡視下手術を施行しています。またスポーツによる靭

人工関節センター

膝関節と股関節の下肢関節に対する人工関節の症例が多く、合わせて年間約300関節の手術を行っており、その良好な治療成績は国内外の学会・論文に発表し高い評価を受けています。当センターでは、基本的に膝関節の変形し障害を来した部分のみを人工関節に置換し、出来るだけ自分の組織を温存する術式（果顆置換術）も選択しています。人工股関節も侵襲の少ない進入方法（DAA）も取り入れています。



▲前方筋間からの低侵襲人工股関節全置換術後

帯損傷、骨軟骨損傷に対し、膝だけでなく各関節にも関節鏡視下手術を導入しています。